

公同礼拝

2025年2月23日(日) 午前10時30分

午後4時

司式 牧師 姜 脛米

奏楽 佐藤裕子

前 奏

招 詞 詩編 58編12節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書 詩編 16編7～11節(旧846)

使徒言行録 13章13～41節

(新238)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 3

説 教 「主イエスによって」 牧師 姜 脛米

祈 禱

讃 美 歌 280

献 金

頌 栄 541

祝 禱

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。
礼拝は前の方から静かに着席しましょう。

2月の祈り

主が共におられることに支えられ、今のこの時代に信仰によって生かされている、その恵みを感じることができるように。

新たな歩みに進み出す若い人々が主の愛と人々の祈りに力付けられるように。

戦火が止み平和がもたらされるように。痛みを負う人々に慰めといたわりが与えられるように。

世の指導者たちが神をおそれ正しい判断をすることができるように。

今日の祈り

教会に連なる一人一人が守られますように。

捧げられる礼拝が豊かな者となり、私たちの希望の源なりますように。

教会学校の子どもの歩みが、幼稚園の子どもの歩みが、守られ、導かれますように。

「主イエスによって」 姜 脛米

使徒言行録 13章13～41節

本日の箇所は使徒言行録が伝えるパウロの最初の説教です。ここでパウロが語っているのは、イスラエルの民の歴史です。それと同時に語っているのは、イスラエルの歴史と主イエスによる救いを結び付けるのは、神様の導き、約束なのだということです。

この導きのみ業は、今も続いています。ダビデは彼の時代に神の計画に仕えた後、死んで葬られ朽ち果てたが、主イエスは、復活させられ、朽ち果てることのない者となり、その後も、今も、生きて働いておられるということです。

教会は、主イエス・キリストにおいて、今も続いている神様の導きの歴史を受け継ぐものです。私たちが主イエス・キリストを信じ、主イエスの十字架の死と復活によって、神様が私たちのために救いのみ業を実現して下さったことを信じるなら、その主イエス・キリストを通して、イスラエルの歴史につながる者、旧約聖書の神様の導きの歴史を受け継ぐ者とされるのです。

罪の赦しの福音の宣言は、それを聞く者に対する問いかけです。私たちが問われているのは、「あなたがたは何によって義とされるのか」ということです。義とされるとは、神様の前に正しい者となるということであり、救いにあずかるという意味であります。あなたがたは何によって、本当に喜びをもって、確かな希望を持って、感謝しつつ生きることができるのか。それは、自分の力、人間が生まれつき持っている能力によってはできない、それが「モーセの律法では義とされえなかった」ということの意味です。

神様は私たちに問うと共に、私たちに招いて下さっています。「信じる者は皆、この方によって義とされるのです」。義とされるために、本当に喜びと希望と感謝の内に生きるために必要なのは、ただ信じることです。

この方、主イエス・キリストが、自分のために十字架にかかって死んで下さり、罪の赦しの恵みを与えて下さったこと、その主イエスを復活させられた神様が、私たちが、この主イエスと共に、新しい命に生かそうとしておられることを信じることです。そのことによって、私たちは神様の前に義とされるのです。罪を赦され、新しい命に生かされるのです。